

# 1. 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2970102055		
法人名	特定非営利活動法人 夢のかけはし		
事業所名	グループホーム とみのくに		
所在地	奈良県奈良市中町3857		
自己評価作成日	2012年6月20日	評価結果市町村受理日	

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>神社やバラ園、森や川に隣接した1500坪の恵まれた環境の中で、入所されている方々は、職員と共に日々穏やかな生活を送ってられます。</p>
---

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良県奈良市登大路町36番地 大和ビル3F		
訪問調査日	平成24年7月3日		

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>自然環境に恵まれ広い敷地内に、介護生活を豊かに過ごせる田畑や鳥小屋などの場を提供している。同じ法人がデイサービスや居宅介護サービス事業所を運営しており、お互いの機能を連携しケアにつなげている。理念として「地域の人たちと協力し、“その人らしく”“誰でも安心して”社会で暮らしていける支援」を掲げており、要望の多い「認知症の利用者が終末期も安心して生活出来る」のターミナルケアを謳い、当事業所で理念を実践している。事業の根幹は、「代表者の出身地であるこの地域に長寿社会を創設する。」という福祉サービス哲学の実現への熱い使命感に基づくものであることに他ならないと感じる。</p>
---

**・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を共用スペースとスタッフルームに掲示、またいつでも誰もが閲覧できるようにし、施設の一員として福祉の増進に日々取り組んでいる。	事業所地域の出身でもある代表者の熱い思いが「地域の人たちと協力し」という理念としてパンフレットにも明記され、利用者が安心して穏やかに終末まで過ごせる場として職員が一丸となり支援している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや、学校行事などに参加している。	広い敷地内では、近隣の方の協力で作物が作られ、秋には、地域と協働で500名位が参加する「とみの国まつり」が開催される。利用者が、市の環境美化清掃ボランティア活動に参加したり、小学校の運動会参観などにも出掛けている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験などを通じ行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行い行政にも報告を行っている。	運営推進会議は昨年度は開催されていない。今年度第1回目の会議では、新たな防災対策の実施状況の報告と今後の課題として、地区社協主催の介護教室に事業所の人材及び場所を提供することや認知症徘徊者をフォローするネットワーク作りについて検討された。	例年に比べて今年の開催が遅れているように思われる。また、会議には地域の代表者や利用者家族にも参加を働きかけ、意見や要望を聴き、事業所の取り組みや外部評価結果を話し合いサービスの質の向上に繋げることが望まれる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政ならびに包括センターと情報交換を行い、協力関係を築いている。	事業所から市の担当者を訪ねて、実情を伝え相談に乗ってもらっている。市の担当者が変わった場合には、事業所に来て現場体験しながら理解を進めてもらい、お互いに協力している。市のアダプトプログラム(清掃ボランティア)事業に参加し利用者も一緒に地域の清掃に取り組んでいる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルの設置を行い、また玄関の施錠は基本的に行っていない。	契約書には、生命や身体を保護するためのやむを得ぬ以外は身体拘束をしないことを明記して、事業所内で徹底している。現在、不潔行為がある利用者(1名)があり、家族に承諾書もらい夜間だけつなぎのバジャマを着てもらっている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	平成24年度奈良県 高齢者虐待防止研修会参加職員同士が虐待について疑問に思うことは常に管理者へ報告し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の勉強会へ参加をし、必要に応じ成年後見制度の活用を行っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結以前に、施設を見学していただき、疑問点等を十分に解決した上で、契約を行っている。また、解約時においては、利用者様の今後の生活等を十分に考慮し、アドバイスを行った上で、契約の解除を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等があった場合は速やかに対処し、ご家族とも連携をとりながら解決できるような体制をとっている。	家族の面会時に、職員が意見や要望を聴くように努めている。終末期を迎えての重要な相談は、管理者が受け持っている。家族会は無いが、行事など家族が集まる機会を利用して、話し合いの場を持ちたいと考えている。	家族は要望など、なかなか言い出しにくいものである。更なる取組として個別に話し合う機会を設け事務的な処理だけでは理解されにくい面を言葉で伝えたり、思いを汲み取ることが望まれる。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員と常にコミュニケーションをはかり、随時行っている。	職員会議はやっていないが、各リーダーから、パート職員まで連絡が伝わるようにしている。夜間の勤務記録や伝言ノート、メールなどで、現場職員の声が届くように、連絡網は出来ている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適正に職員を評価し、給与のベースアップや業務の見直しをおこなっている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に応じ、認知症介護実務者研修、管理者研修等を受講している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	不定期ではあるが、同業他社との食事会や、施設訪問を行い意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談を受けた後、本人との面接を通して行っている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けた後、ご家族との面接を通して行っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの利用に限らず、総合的に見極め、アドバイスを行っている。事実、グループホームへの入所相談に来られたが、現在はデイサービスを利用されている方もある。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の能力の不足分をお手伝いさせて頂きながら、ご本人の残存能力を十分に引き出しながら、人生の先輩から学ぶ姿勢で生活を共にする関係を築いている。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話、文書で近況報告を行い、日々の変化を共有し、ご家族から本人へ励ましや喜びの声掛けをしていただき、職員とご家族で本人を支援している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、親戚、知人等の面会が気兼ねなくできる雰囲気作りを心がけ、自宅や知人宅への外出もご家族の理解と協力を得ながら支援している。	利用者の学生時代の友人や家族など来訪は多い。家族と食事や墓参りに行く人もいる。外泊は殆どない。訪問者との外出も支援しているが、その訪問者との関係には十分注意し、判断に迷う場合は、ホーム内で過ごしてもらおうようにしている。職員の異動も極力少なくしており馴染みの関係を切らないよう努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はなるべくリビングで過ごして頂く事で、利用者同士が共同作業やコミュニケーションをスムーズに行えるよう支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関わりを必要とされている利用者やご家族があれば、いつでも対応できる体制をとっており、退所時にはその旨を伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握したうえで、施設サービス計画書を作成し、ご家族にも同意を得ている。</p>	<p>フェースシートを利用しながらも、利用者一人ひとりが各々の思いを抱いているので、職員は日々のコミュニケーションから理解するように努めているが、困難な場合は、利用者との呼吸を大事にしながら支援している。</p>	
24		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>利用者やご家族との聞き取り調査を行いフェイスシートの作成により行っている。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>フェイスシートの内容を把握した上で、実際にケアを行うことにより把握している。</p>		
26	(10)	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>計画作成担当者が、利用者やご家族、職員とコミュニケーションを図り、実情に即した介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画書の見直しは概ね1年で行っている。下肢筋力の低下を遅らせるためリスクがあることも利用者と家族に理解してもらい、出来るだけ長く歩くりハビリティを採り入れたり、精神疾患の進んだ方を病院に移したり、と現状に即した介護計画を作成している。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別記録をもとに、特記事項については申し送りを確実に行い、情報を共有している。また、心身の変化、ケアの実践に基づく結果を介護計画の見直しに反映させている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>さまざまなニーズに対応できるよう、自社や他の事業所と連携をはかり、支援できる体制を構築している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	特に教育機関(幼稚園、小学校、中学校)と協力し、運動会への参加、職業体験等を受け入れている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医による月に2回の往診、歯科医による月に1回の往診の実施。以外にご家族との連携等により支援を行っている。	基本的に利用者には、事業所の協力医をかかりつけ医としてもらい月2回の訪問診察を受けて健康管理がなされている。専門医を受診する場合は家族にお願いし、緊急時の通院介助については支援している。協力医とは、24時間連絡を取れる体制を作っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に利用者の状態の変化について、相談し、支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携の医療機関は勿論、提携を行っていない医療機関でも医療連携室や担当医等と連携し支援している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に『看取りの指針』について説明を行い、ご家族の意向を把握している。また、終末期の対応については、ご家族、職員が方針を共有している。	終末期までの支援要望が多く、事業所の指針が明文化されており、サービス内容として本人と家族に事前に説明されている。実際に重度化を迎えたら、協力医、家族を交えて話し合い同意を文書で確認し、看取りまでのケアを行っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの設置を行い、また消防署の協力で講習も行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署への自動火災通報装置の設置や、非常時の近隣の方々から協力していただけるよう、了解済み。	消防署への自動火災通報装置が設置されており、H24年度は緊急時の自動開錠電子錠や、スプリンクラーの新設、調理コンロのIH化など、設備機器的な防火対策は整備されたが、災害を想定した避難訓練等は、これからの課題である。	運営規定にも、年2回以上の防災訓練の実施が明記されている。特に宿直職員一人が見守っている夜間を想定した避難訓練の実施が望まれる。避難訓練を行うことにより、いざという時の当直者の大きな自信につながると思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライバシーを大切に、個人情報についてはスタッフルームで管理し、職員についても守秘義務等の徹底を図っている。	利用者一人ひとりの人格を尊重して、その人の生活リズムに合わせて職員が対応している。時間が掛かる食事介助も、本人が納得するまで、声掛けしてゆっくりと対応していた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の行動や表情を観察し、本人がどうしたいのかを探り、できるだけ本人に選択できる場面をつくりながら、本人が意思決定できるよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者をよく観察し、本人のニーズを引き出し、柔軟に対応できるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについては、本人の習慣や嗜好を考慮し、支援している。理美容については本人が望めばご家族等にも支援していただきながら対応している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人ができる事を見極め、食事の準備や片づけを行っている。また、以前使用されていた食器類等を持参頂いたり、本人が使いやすい食器を使用している。また食事時のBGMなど環境にも配慮し支援している。	昼食は、調理専門職員が、納入された食材で調理し、夕食は、業者で調理された料理を職員が盛り付けている。準備のお手伝いや片付けをする利用者もいる。職員は食事介助をしながら見守っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し、必要に応じ支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。また歯科医とも連携をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の記録から個人の排泄のパターンを理解し、プライバシーに配慮しながらトイレへの声かけ、誘導を行うとともに、できるだけ自分で行えるよう支援している。またパットの使用等は最小限におさえ、布パンツの使用など気持ちよく過ごせる様支援している。	排泄の全介助の方は2人おられる。利用者ごとの排泄パターンを記録しており、一人ひとりのパターンを理解し、トイレ誘導をしながら排泄自立への支援をしている。夜間は2回位のおむつ交換で介助している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の周期を記録し、必要に応じ飲食物やマッサージ等で予防し、場合によっては医師や看護師と連携をとっている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の本人の心身の状態を総合的に判断し、入浴の意義を十分理解した上で支援している。	浴室がリフォームされきれいになり、広い浴槽で同性介助を基本に週2回の入浴を楽しんでもらっている。夜間の入浴支援は職員配置の関係で難しいことから、夕方までに行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活リズムを把握し、日中の過ごし方などを検討しながら、安心して就寝できるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬のある方については薬局からの薬の説明書にて理解しており、服薬の支援を行うとともに、状態の変化を確認し、状態によっては医師に確認をとり指示を仰ぎ、服薬の内容を調整している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人に合った役割や、本人の嗜好などを日々のケアの中から見出し、支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩等は勿論、ドライブや買い物、観光などを行っている。また個人的な場所についてはご家族等の協力を得られるよう支援している。	普段は、個々に広い事業所の敷地内や隣のお寺まで朝の散歩に出かけ、季節には、全員で東大寺やお花見ドライブに出掛けたり県庁の屋上でお弁当を食べるなど外出を楽しんでいる。また、買い物や外食など、外出することが楽しみにできるように支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所で金銭の管理を行っているが、個人の能力に応じ、お金あるいはほかに変わるものを管理、所持していただいている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全を第一に考え、安心して利用していただけるよう工夫している。また季節を感じられるよう花や行事的なものも飾るようにしている。	事業所は周りの自然環境に極めて恵まれており、季節感も与えてくれる。共用の場には、利用者手づくりの作品や各人の顔写真などが飾っており、安らぎを感じられるよう工夫されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	十分な座席数を確保しており、利用者が自分の意思で座る場所を決められるようにしてある。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人がより安定して生活していただけるよう、ご家族等と相談しながら、家具や写真等を持ってきていただき空間の演出を行っている。	事業所は家族に馴染みの物の持込を勧めている。居室にはベッドが備えつけられ、室内に大きな物入れがあるのでシンプルに整理し易くなっている。女性の利用者には、生活に馴染んだ家具や飾りものなどを配置している方が多い。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり等の設置は勿論、表示の仕方などを工夫している。 介助しすぎず個人の能力を引き出すアプローチの仕方を意識しながら介助を行っている。		